

にほん ぎょうじ 日本の行事

にほん しょうがつ 日本のお正月

「明けましておめでとうございます。」というあいさつから始まるお正月。

日本では、一年のはじめの月を(お)正月といいます。

正月には年神(祖霊)がやってくるとされ、様々な行事があります。祖霊信仰は日本古来のもので、家族や親戚、地域の人々によっていろいろな行事が催されてきました。また、年末から年始にかけては多くの人が一番長い休暇に入ります。

クリスマスが終わると途端に、新しい年を迎えるための準備に気ぜわしい空気につまれます。家庭では大掃除に取りかかります。これは、日本では元旦(1月1日)が「一」からはじまり、「この世にあるものが生まれ変わる」という意味が古くから信仰されているため、一年の終わりに一年間でたまった垢を落として新しい年を迎えるという意味があります。しめ縄を戸口に飾り、玄関には門松が飾られたり、年棚(祭壇)を設け、鏡餅や酒、干柿などが供えられたりしてきました。しかし、近年、都市化や核家族化が進むと共に行事も簡素化され、門松やしめ縄を飾る家も少なくなってきました。

新年の前夜は大晦日と呼ばれ、人々は0時になるとお寺で108つの鐘を打ち、煩惱を消す「除夜の鐘」を聴いたり、長いそばのように家族の幸せが続くことを願い、各家庭などで、年越しそばを食べられます。

1月1日(元旦)は家族で過ごし、おせち料理を食べ、寺や神社などに初詣で行ったりします。親戚や友人から送られてくる年賀状(グリーティングカード)も楽しみのひとつです。

《お正月かざり》

元旦(1月1日)は一家を守ってくれる歳神様が天からおりてくる日だそうです。そのため、お正月飾りをかざって、神様を迎えます。お正月にみなさんが目にする、お正月飾りにはそれぞれ意味があるそうです。

しめ縄



しめ縄は神を迎える場所を表すしるしです。家を清めて年神様を迎えるため、門前や玄関前に飾ります。事故防止に車にも飾られています。

かまど 門松



古代日本では松などの常緑樹には神が宿るとし、家の間ぐちにこの神聖な木の枝を立てました。そして年神様はそれを伝えて降臨すると信じられていました。

かがみ 鏡もち



丸く平たい鏡のような形に作った餅です。これはトシの神の神座(神の居る場所)となります。古来、鏡は祭祀に使われる神聖なもので、神が宿る場所だと考えられてきました。トシの神は穀物の神様ですから、穀物の加工品である餅には、神の霊が宿ると考えたのです。大小餅を重ね、その上にそれぞれ、喜び、長寿、家代々の繁栄のシンボルである、こんぶや裏白、橙をのせ、床の間や各部屋に飾ります。

かがみびら 鏡開き



正月が終わると、鏡もちを床の間から下げて、雑煮やお汁粉に入れて食べます。神様に供えた餅なので、刃物で切らずに手で割った方がよいのだそうです。

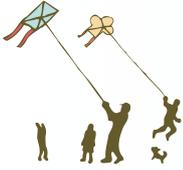
りょうり おせち料理



おせちは平安時代の節会(五節句)の儀式に供えられた料理のことで、豊作と健康を祈って、その年の収穫された品々が神前に供えられ、それらが用いられました。それぞれの儀式がすたれ今日、料理の名称として残っています。正月三が日にはゆっくりと楽しむため家事労働を軽減し、餅をはじめ保存食的料理が暮れ(大晦日)から作られ、重詰めされる正月料理が生まれました。本来4段重ねですが、最近では簡素化されています。

《日本のお正月遊び》

子どもたちは今も古くから伝わる日本のお正月遊びをして過ごすことができます。
みなさんもお正月に遊んでみてください。



たこあし 凧揚げ

糸を引っ張ったり、緩めたりして風の強さや方向を捉えながらたこを飛ばして遊びます。割り箸とナイロンのごみ袋で簡単に自分の凧をつくることができます。洋風のたこは「カイト」と呼ばれ、たこの形や素材が少し異なります。風の吹く日にあげてみてください。



こままわし

紐をコマにまいて、まわします。色々な大きさや形のコマ、遊び方があります。フィルムケースのふたの真ん中に穴をあけ、爪楊枝を通してでもできますよ！



はねつき 羽根つき

木の板で羽をバドミントンのように打ちます。板の片面に人形などが飾られ、日本の贈り物としても人気があります。

剣先にささった剣玉



けん玉

柄をしっかりと親指と人差し指でもち、大皿、中皿、子皿、剣先に紐でつながった玉をいれます。様々な技があり、その技には名前がついています。



ふくろ 福笑い

顔の輪郭を描いた紙のうえに、目隠しをした人が「目」「鼻」「口」、「まゆげ」などをおいていきます。



かぞめ 書き初め

☆☆ちよつとおまけ☆☆ ~大人も書いてみませんか~
正月に筆と墨で「お正月」「日の出」などお正月にちなんだ言葉や新年の抱負などを白い半紙にかきます。

いちがつ 1月



いちがつついたち 1月1日 元旦

一年の最初の日。神社仏閣をお参りし、一年の幸福を祈る。お節料理と餅入りの雑煮でお祝いの会食をします。

いちがつなつか 1月7日 人日 七草

七草(ななくさ)は、人日の節句(1月7日)の朝に、7種の野菜が入った粥を食べる風習のことです。

いちがつ 1月の第2月曜日 成人の日

※年によって日付が異なります。
この一年に満20歳を迎えた男女を祝福する。各市町村で新成人を励ます会が催され、祝賀行事に晴れ着姿の若人たちが参加します。



がつ
2月

にがつみっか せつぶん
2月3日 節分



大豆を煎った豆を一升ますに入れ、戸外や庭に向かって「鬼は外」、家の中では「福は内」と叫びながら豆をまき散らす。その後で、自分の年齢分、あるいは年齢より1個多い豆を食べて1年間の無病息災を願います。

にがつじゅうよっか ばれんたいんでー
2月14日 バレンタインデー

バレンタインデーは紀元3世紀、ローマ帝国で兵士の結婚が禁止されていた時のこと、バレンタイン司祭が兵士達の結婚の手助けをして処刑になったというお話にちなんで始まったと言われています。

いつのころからか、日本ではこの日、女の子から好きな男の子にチョコレートを手渡し、愛を告白します。

でも、それだけではなくて、日頃お世話になっている人や職場の人、お父さんや兄弟にもチョコレートをプレゼントする人もいて、デパートの店頭では、2月になるとチョコレート売り場が女の子でいっぱいになります。



さんがつ
3月

さんがつみっか きも せっく
3月3日 桃の節句



今では「ひな祭り」ともいわれ、女の子のお祭り。雛壇を飾り、ご馳走を食べ、白酒を飲み、家族で楽しいひとときを送ります。

さんがつじゅうよっか ほわいとでー
3月14日 ホワイトデー

バレンタインデーにチョコレートもらった男の子が、女の子にホワイトチョコやキャンデーなどでお返しをする日です。

さんがつ ほつ か しゅんぶん ひ とし
3月20日 春分の日 ※年によってかわります。

「春のお彼岸」ともいい、先祖を偲びお墓参りをします。



さんがつさんじゅういちにち ねんどあわい
3月31日 年度終り

日本の学校や会社の1年が終わります。卒業式や卒園式も3月に行われます。



しがつ
4月

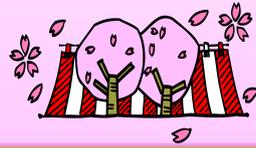
しがついつち **4月1日** ねんどはじ 年度初め

にほん がっこう かいしゃ 1ねん はじ にゅうがくしき いしゃしき しがつ おこな
日本の学校や会社の1年が始まります。入学式や入社式も4月に行われます。



4月上旬 お花見

はな かんしやう はる おとず こほ かんしやう にほん ばあい おおく かいが した おこなわれる
花を鑑賞し、春の訪れを肴く慣習です。日本の場合、多くは開花した桜の下で行われる宴会のことをいいます。



こがつ
5月

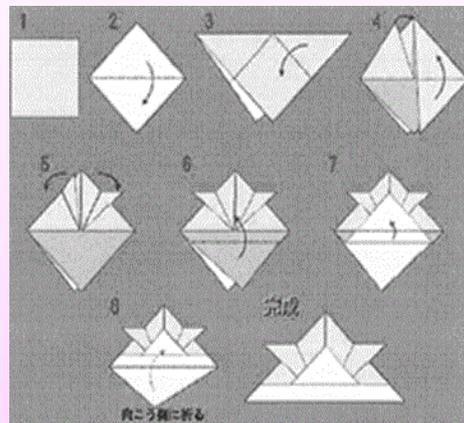
こがついつか **5月5日** たんご せつく 端午の節句

かていでは、こどもたちすこせいちやうねがって、お祝いします。さんがつみつか まつ おんな こせつく
家庭では、子ども達の健やかな成長を願って、お祝いします。3月3日のひな祭りが女の子の節句であるの
に対し、この日は男の子の節句。男の子のいる家庭では、かぶとや五月人形、鯉のぼりを飾ります。

こどものひが近づくと、いえやねあぱーとのべらんだにおよこいめ
子どもの日が近づくと、家の屋根やアパートのベランダに泳ぐ鯉のぼりを目にするでしょう。これは、「鯉が黄河
を上っていき、その水脈(登竜門)に達したとき、龍になる」という中国の「鯉の滝のぼり」の故事にちなんで、
子どもの健康やしゅっせねがって立てられます。

たんご せつくは、「こどもひ」として、1948年に国民の祝日となりました。「子供の人格を重んじ、
こども こうふくをはかるとともに、ははおや かんしゃするひ」と定めています。

お かつ
かぶとの折り方 →



こがつだいにちやうび **5月第2日曜日** はは ひ 母の日

はは ひ ははのひは、ひごろ かあ くろう いたわ かあ かんしゃ あらわ ひ
母の日(ははのひ)は、日頃のお母さんの苦勞を労り、お母さんへの感謝を表す日です。

にほん ほか くにぐに こがつ だいにちやうび いわ きげん せかいちゆう さまさま ひづけ
日本や他の国々では5月の第2日曜日に祝いますが、その起源は世界中で様々であり日付も
異なります。

お母さんありがとう



ろくがつ
6月

ろくがつだいさんにちようび ちち ひ
6月第3日曜日 父の日

ちち にち はは ひ いっかげつ 1しゅうかん
父の日(ちちのひ)は、母の日から1カ月と1週間おくれでやってきます。
ひごろ どう かんじゅ あらわ ひ
日頃のお父さんへの感謝を表す日です。



なながつ
7月

なながつなのか たなばた
7月7日 七夕



よぞら かわ のように みえる ほし む にほん あま かわ よ
夜空に川のように見える星の群れを日本では「天の川」と呼んでいます。その天の川に隔て
られた彦星(牽牛星・わし座のアルタイル)と織姫(織女星・こと座のベガ)が年に一度
だけ会えるのが七月七日の夜で、その星祭の行事を「七夕」といいます。

もともと ちゅうごく では、その ふた つの星を祭って裁縫の上達を願う祭りがあり、それが日本にも
取り入れられ、六世紀(奈良時代)頃から行われるようになり、十五世紀(江戸時代)に民間
に広がりました。

げんざい なながつなのか ねが ごと か ごしょく ほそなが かみ たんざく かんたん かざ ささき つ
現在では七月七日に、願い事を書いた五色の細長い紙(短冊)や簡単な飾りを笹に吊るし、
かわ うみ なが ねが ごと かな いの
川や海に流して願い事が叶うようお祈りします。



なながつじゅうごにち ちゅうげん
7月15日 お中元

にほん せわ ひとびと おく しゅうかん ちゅうげん よ おく じゅうごにち
日本ではお世話になった人々に贈り物をする、この習慣をお中元とも呼びます。贈るのは15日までです。
いこう そうとうひん しょちゅうみま
それ以降の贈答品は暑中見舞いといいます。

はちがつ
8月

はちがつじゅうさんにち じゅうろくにち ぼん
8月13日~16日 お盆

にほん ぼん よ せんぞ くよう しゅうかん
日本では、8月13日から8月16日を「お盆」と呼び、先祖を供養する習慣があります。

8月13日、な なくなった祖先をこの世に迎え、共に過ごしたのち、16日、あの世へ送り出すと考えられてい
ます。このため、この季節、多くの人びとがふるさとでお墓参りをし、もど 戻ってきた精霊をなぐさめるため、かくち
盆踊りが催されます。



くがっ 9月

くがつちゅうじゅん じゅうごや 9月中旬 十五夜

お月見は旧暦の8月15日(新暦の9月中旬頃)に月を鑑賞する行事で、この日の月は「中秋の名月」、
「十五夜」、「芋名月」と呼ばれます。月見の日には、おだんごやお餅(中国では月餅)、ススキ、サトイモな
どをお供えして月を眺めます。

くがつだいさんげつようび はいろう ひ 9月第3月曜日 敬老の日

老人を敬愛し、長寿を祝う日です。



くがつにじゅうさんにち しゅうぶん ひ とし 9月23日 秋分の日 ※年によってかわります。

太陽が秋分点に達する日です。祖先をしのびます。「秋のお彼岸」ともいいます。おはぎを食べます。

じゅうがっ 10月

じゅうがつだいにげつようび たいいく ひ 10月第2月曜日 体育の日

「スポーツにたししみ、健康な心身をつちかう」ことを趣旨としている国民の祝日です。スポーツに関する様々
な催し物を開催するところもあります。



じゅうがつちゅうじゅん じゅうさんや 10月中旬 十三夜

日本では旧暦8月15日だけでなく9月13日(新暦の10月中旬頃)にもお月見をする風習があり、こちら
は「十三夜」、「後の月」、「栗名月」とも呼ばれています。十三夜には、月見団子の他に栗や枝豆をお供え
します。各地には「十五夜をしたなら、必ず十三夜もしなければいけない」という言葉が伝えられており、片方
だけの月見を嫌う風習があったようです。十三夜の風習は中国にはなく、日本独自のものだそうです。

じゅういちがっ

11月

じゅういちがつじゅうごにち しちごさん 11月15日 七五三

子どもの成長を祝う日本の伝統的行事で、3歳の男女、5歳の男児、7歳の女児がお参りをします。
今では洋服姿の子ども達も多いですが、男の子は袴、羽織姿、女の子は着物姿が伝統的スタイルで
す。今では衣装などをレンタルするところ、または写真スタジオでも七五三の記念写真撮影などしてくれると
ころもあるようです。



じゅうがつ
12月

がつ 12月13日 ことはじめ

ことはじめとは、しょうがつを迎える準備を始めることをいいます。昔はこの日に門松やお雑煮を炊くための薪など、お正月に必要な木を山へ取りに行く習慣がありました。

がつちゅうじゅん 12月中旬 お歳暮

日本では、年の暮れにお世話になった人に対し感謝するなどの歳暮周り(せいぼまわり)と呼ばれる行事があります。このときに贈り物をしますが、この贈答品がお歳暮と呼ばれ、現在では「歳暮」「お歳暮」といった場合、この贈答品、または贈り物の習慣を指すことが一般的です。

がつ 12月22日 とうじ

北半球では、1年でいちばん昼が短く夜が長い日のことです。「冬至の日に柚湯にはいると風邪をひかない」などと昔からいわれています。また、カボチャを食べるとか、コンニャクを食べるといふ地方もあります。



がつ 12月25日 くりすます

12月になると、街はクリスマスイルミネーションで飾られ、華やいだ空気に包まれます。日本では、宗教に関係なくクリスマスは楽しい年中行事となっていて、各地でもイベントなどが開催されています。また、子どもたちの多くは、クリスマスケーキやクリスマスプレゼントを楽しみにしています。



がつ 12月31日 おおみどか 大晦日

1年で最後の日です。細長いそばにあやかって、長生きを願うため年越しそばをいただきます。午前零時前後にお寺で「除夜の鐘」が打ち鳴らされます。108ツあると言われていた人の煩惱を取り去り、新しい心で新年を迎えるため、108回鐘をつきます



しょうかい ほか
ご紹介した他にも、
にほん ぎょうじ
日本の行事はたくさんあります。

※これまでに発行した「みみタロウ」の記事を参考に編集いたしました。